

保井春海と其の子昔尹に就て

我國中世の天文學者保井春海は幼名を六藏と云ひ、後年は澁川助左衛門と稱してゐました。父は即ち算哲と云ひ、寛永16年(西曆紀元1639年)閏11月京都四條室町に生れ、人となりは幼にして聰敏明達だつたやうで、慶安3年歳12歳の時既に江戸に出で、父算哲に代り幕府基所に仕へました。そして翌々年承應元年には父歿したる故をもつて、父名を繼ぎ、算哲と稱しました。時に歳14歳でした。

其の後は屢々江戸と京都の間を往來し、神道を山崎闇齋に學び、天文曆法を陰陽の頭安部家に學び、其の他古今の書を涉獵して研鑽し、元の授時曆法を専ら研究して、その蘊奥を極めました。そして、寛文10年(西曆紀元1670年)には渾天儀を修正して新制渾天儀を製作し、時の三代將軍綱吉に天文學を侍講するに當てつ天球儀を作つてゐます。是の天球儀は將軍家に献上され、將軍綱吉は之を大成殿に置いてゐた相です。是の天球儀は現在東京帝室博物館に所藏されてある筈で、是れは若洲小濱酒井家の寄贈になれるものと記憶してゐます。

明治大帝には、明治40年11月澁川助左衛門、即ち保井春海が國家に貢獻せる偉功を追賞せられ、從四位を贈り賜はつてゐます。

春海は正徳5年(西曆紀元1715年)10月6日歳77歳のとき江戸駿河台の自邸に病を以て歿しました。此處で少しく書き落しましたけれど、春海は萬治3年に漢土有名星の中、300星座の間隙に61星座307星を指定し、是れには全部我が國で昔時用ひられた百官の官名若しくは其の類名を以て命名したのでありますが、この自身撰定の星に三家、即ち巫咸、甘德、石申の指定星を加へ、其等を一球に圖録したものが、將軍家に献上の天球儀だつたやうです。

次に保井昔尹は、即ち保井春海の子で、保井圖書源昔尹、字は春江と云ひます。天和3年(西曆紀元1683年)京都の生れ、性は溫柔で、事業早成だつた相です。14歳で江戸に上り、父春海が歳61歳の時、幕府に請ひて昔尹をして代りて天文職務に當らしめましたけれど、正徳5年4月4日歳33歳で病を以て父春海に先立つて歿しました。此の昔尹の著した有名なものに『天文成

象方圖圖』と云ふのがあり、是れは元祿12年3月の完成で、昔尹17歳の時だつたやうに思ひます。彼は父春海の指定した前述の61星座308星に、漢土有名星を加へて、獨立に製作したものです。ここで一寸漢土有名星と云ふのは、

商國の	巫咸が作つた	44星座	143星
齊國	甘德	118星座	491星
魏國	石申	186星座	1506星

のことで、この中から清の陳卓が三家有名星として283座1465星を圖録した事があり、昔尹は陳卓の圖と、父春海の指定した61星座を加へて、色別して製作したものだつたやうに私は讀んでゐます。尙ついでに、商の巫咸と云ふ人は、西曆紀元前1610年頃の人で、神武天皇即位紀元元年から950年前に當り、巫咸は帝太戊を佐け、其の子巫賢は帝祖乙を佐く、父子共に段の賢臣たり』だ相です。次に、甘德と石申とは、大體に西曆紀元前325年頃前述の星

番號	星 座 名	星數	番號	星 座 名	星數	番號	星 座 名	星數
1	軍 艦	3	22	民 部	8	43	内 膳	3
2	右 京	8	23	織 部	4	44	大 膳	5
3	左 京	8	24	造 酒 司	7	45	兵 部	6
4	諸 陵	5	25	主 水	4	46	非 參 議	9
5	天 湖	5	26	主 隼 人	4	47	宰 相	1
6	湯 母	4	27	龍	5	48	神 祇	8
7	湯 坐	2	28	玄 蕃	5	49	兵 庫	1
8	内 侍	3	29	太 宰 府	5	50	天 帆	9
9	市 正	7	30	天 倭	16	51	天 轅	8
10	采 女	2	31	鴻 雁	8	52	天 外 衛	4
11	右 衛 門	3	32	大 炊 藏	9	53	主 計	2
12	左 衛 門	3	33	大 藏	7	54	主 竹	5
13	腹 赤	2	34	主 稅	5	55	松 薄	5
14	刑 部	5	35	宮 內	9	56	萩 曾 孫	2
15	大 將	2	36	大 學 寮	6	57	玄 孫	2
16	中 將	8	37	式 部	7	58	齋 宮	2
17	少 將	9	38	治 部	6	59	胡 蘇	6
18	雅 樂	3	39	中 務	5	60	傳	1
19	陰 陽 寮	3	40	天 蠶	6	61	鎮 守 府	2
20	大 貳	2	41	右 馬 寮	8			
21	小 貳	2	42	左 馬 寮	3			

座數と星數とを指定してゐますが、其の他に、甘德は天文占星を、石申は天文星經を著してゐます。上田教授の『石氏星經の研究』はこれです。又、史記評林には石申を指して『百代曆家の祖と稱せらる』と書かれてあつたやうに思ひます。餘談はこれ位にして、次に春海命名の星座名と星數を記して見ますと前頁の表の通りです。以上61星座の番號は手あたり次第で、命名順に依つた番號ではありません。近く(又の機會に)以上の307星を今日の星座名と星名とに對表して御眼にかける筈ですが、此處に記してある星名は全部今度の私の星圖には記入して置きました。

1936年1月5日 草 場 修

□ 寄 稿 者 紹 介 □ (5月號)

☆垂井増太郎氏——(枝幸へ、網走へ!!)

本會京都教員支部幹事、京都市明倫小學校訓導、京都理科研究會幹事、本會の創立當時よりの功勞者であり、本年の日食には理科研究會々員10數名を伴つて専門觀測に出掛けらる。

(現住所 京都市上京區鷹野花坊町49)

☆坂元左馬太氏——(反射鏡の球面と拋物面との數字的差異)

鐵道省技師、大阪支部に於ける熱心なる支持者、何時の月例會にも必ず氏の官服姿が見受けられる。

(現住所 兵庫縣武庫郡精道村打出天八)

☆草 場 修氏——(保井春海と其の子昔尹に就いて)

目下、ボン星表による大星圖の製作にいそしんでゐられる精力家。

(現住所 京都市吉田阿達町 森方)

☆森安 千秋氏——(トピック2つ)

本會觀測部員、年若い熱心な觀測家。

(現住所 香川縣觀音寺町上市區)

☆山崎 幸夫氏——(流星觀測に興味を持てば)

バグナル會社々員、電燈照明に通饒す、本會大阪地方委員。

(現住所 大阪市住吉區帝塚山中四丁目48)

☆西森 菊雄氏——(春季合同ハイキングに参加して)

大阪支部事務所を自宅に置き、支部の事業・計畫・會合には獻身的の奉仕を勤めらる、有力たる大阪地方委員、金物商を手傳つて居られる。

(現住所 大阪市南區安堂寺橋通1の11)